

●あんぽ柿

《アッププラン目標値》

◆出荷数量計画

年度	数量
平成29年度	989t(伊達)
平成30年度	1,060t(伊達)

◆秀品率アップ

◎現状	72%
◎連絡協議会目標	80%
◎最高値実現農家	90%

◆原料柿確保目標(10a当たり)

目標値(平種無)	2,000 kg
目標値(蜂屋柿)	2,000 kg

加工製品率 25 %

加工製品率 28 %

※県果樹農業振興計画経営指標参考

《重点取組事項》

◎良質な原料確保対策	①樹齢・樹勢に応じた剪定による結果枝の確保 ②5月中旬から7月上旬の「炭疽病」「落葉病」の重点防除期の適期防除と防除基準記載の薬液量散布 ③「軟果対策」「日持ち向上」のため6月の防除から3回程度カルシウム剤を使用 ④収穫後の追熟管理徹底
◎製品品質向上対策	①原料果の熟度に応じた硫黄量の調整 ②温湿度条件に応じた硫黄燻蒸の実施 ③加工時期に応じた干場での連間隔の調整 ④工場扇・天井扇等の導入検討、空気がよどまない干場 ⑤脱渋期間から糖化期間前後(剥皮後8日から20日)の徹底管理によるカビ防止 ⑥雨上がり高温時の管理徹底
◎JA農業振興支援事業	①皮剥き機等の加工機器の積極的な導入 ②劣化しにくい直管の導入検討
◎あんぽ工房みらいの活用	①包装作業軽減対策として出荷誘導
◎あんぽ柿に関わる現在取組中の事業	①年内出荷率向上と年明けの出荷計画による単価確保 ②大玉果の有利販売 ③ニュー柿一番に代わるJAオリジナル柿専用肥料の試験開発(樹勢に応じた施肥体系・肥効がきれないように)
◎衛生対策	GAP実践マニュアルに基づく、干場・加工場の衛生管理徹底と、袋詰め時の異物混入絶無
◎新表示法に伴う表示	生産者個別の住所・氏名・Noを包材に入れることで、食品表示法新制度移行に対応する
◎あんぽ柿に関わる現在取組中の事業	①地理的表示制度の申請 ②商標登録の申請 ③年内、年明の賞味期限統一に向けた調査研究 あんぽ柿は加工食品であることや加工再開モデル地区(7小字が自粛)での出荷であることから、他品目と同様に扱うことは難しいと思われる。現在でも幼果期検査・収穫前後検査を実施し加工の可否を判断している状況であり、全面出荷再開に向けての取組が最重要課題である。

《各地区の生産状況》

地区	部会員(出荷者数)	備考
福島	8名	
伊達	723名	震災前852名